

児童発達支援又は放課後等デイサービス事業に係る自己評価結果公表用

公表日：2021年12月21日

事業所名： オリオンまどがた

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容
環境・体制整備	1 利用定員に応じた指導訓練室等スペースの十分な確保	確保出来ている。活動内容毎で部屋を分ける等の配慮もしている。	はい:23名 どちらともいえない:5名 わからない:2名	今後も同様の対応を実施していく。空気清浄機等も設置し、衛生面等にも配慮しながら支援を実施していく。
	2 職員の適切な配置	出来ている。基準の配置人数に加え、プラス1名の配置をしている。	はい:24名 わからない:6名	引き続き、良い支援が出来るように進めていく。
	3 本人にわかりやすい構造、バリアフリー化、情報伝達等に配慮した環境など障害の特性に応じた設備整備	バリアフリー化はしっかりと実施は出来ていない。トイレ等の場所が分かり易い表示や、絵カードによる情報伝達を実施する等の工夫をしている。	はい:23名 わからない:7名	言語による伝達のみではなく、絵カードや掲示等、構造化をしっかりと進めていく。
	4 清潔で、心地よく過ごせ、子ども達の活動に合わせた生活空間の確保	活動部屋、送迎車、トイレ等、定期的な清掃や消毒を実施している。その他、空気清浄機の設置。	はい:27名 わからない:3名	現状の内容を引き続き実施していく。
業務改善	1 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)への職員の積極的な参画	共有方法等を工夫しながら進めている。まだまだ出来ないところもあるが、職員も積極的に参画している。		PDCAサイクルを意識しながら、常に考えて実施していく。
	2 第三者による外部評価を活用した業務改善の実施	第三者評価は受けていない。		今後検討する。
	3 職員の資質の向上を行うための研修機会の確保	事業所内での勉強会、外部講師による研修、法人内研修等、定期的実施している。		現状の内容を引き続き実施していき、職員の資質の向上、保護者満足度の向上へと努めていく。

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容	
適切な支援の提供	1	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上での児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画の作成	分析に弱いところがあり、アセスメントを再度とり直した。アセスメント票も新しく作り直し、更に良い計画となるように努めた。	はい:30名 わからない:1名	現状の内容を引き続き実施していく。その都度、必要に応じて様式の変更、項目を増やす等の対応をとっていく。
	2	子どもの状況に応じ、かつ個別活動と集団活動を適宜組み合わせた児童発達支援又は放課後等デイサービス計画の作成	実施している。自己選択・自己決定、または自己肯定感を高めていけるように配慮している。		現状の内容を引き続き実施していく。
	3	児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画における子どもの支援に必要な項目の設定及び具体的な支援内容の記載	出来ている。長期目標に向けたスモールステップを確実にこなしていけるように意識している。		現状の内容を引き続き実施していく。成長の度合いに合わせて、随時変更や追記をしていく。
	4	児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画に沿った適切な支援の実施	出来ている。本人支援に加え、ペアレントトレーニングも更に充実していけるようにする必要はある。	はい:31名	現状の内容を引き続き実施していく。保護者または関係機関との連携を更に強化していけるように努めていく。
	5	チーム全体での活動プログラムの立案	全体での立案、個々での立案によるチームでの共有等、様々ではある。それぞれに意見が言い合える環境は出来ている。	はい:31名	現状の内容を引き続き実施していく。
	6	平日、休日、長期休暇に応じたきめ細やかな支援	利用時間の長い平日等は、外出支援や学習を実施出来るように努めている。平日もそうだが、児童が退屈しない様に支援内容には気を使っている。		現状の内容を引き続き実施していく。家ではあまり経験出来ないことをしてみる等、新しい発見も出来るように計画を立てていく。
	7	活動プログラムが固定化しないような工夫の実施	全体活動においては月間予定を出している。個別プログラムにおいては同じことを繰り返し実施することは大切なので、固定化されることもある。		現状の内容を引き続き実施しながら、その都度、児童に合った内容へと変えていけるように臨機応変に対応していく。
	8	支援開始前における職員間でその日の支援内容や役割分担についての確認の徹底	徹底出来ている。支援前の確認と、児童帰所後の振り返りは毎回実施している。休んでいる職員に対しては必要に応じてLINE等も使用し共有している。		現状の内容を引き続き実施していく。
	9	支援終了後における職員間でその日行われた支援の振り返りと気付いた点などの情報の共有化	同上		同上
	10	日々の支援に関する正確な記録の徹底や、支援の検証・改善の継続実施	検証や改善はPDCAを意識しながら実施している。記録が正確に残せる様にダブルチェック等を実施している。		現状の内容を引き続き実施していく。外部講師や事業所内研修等で、違ったアプローチ方法等を聞きながら、質の向上へと努めていく。
	11	定期的なモニタリングの実施及び児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画の見直し	出来ている。		現状の内容を引き続き実施していく。常に最新の情報でいられるように意識しながらモニタリング等、実施していく。

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容	
関係機関との連携	1	子どもの状況に精通した最もふさわしい者による障害児相談支援事業所のサービス担当者会議への参画	正確な情報の提供と共有が出来るように、管理者、児童発達管理責任者、現場職員が出席出来るようにしている。		現状の内容を引き続き実施していく。事業所間等の横の繋がりをしっかりと持てるように努めていく。
	2	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援の実施	連絡体制の整備は出来ていない。		必要に応じて他機関との連携を実施していく。
	3	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制の整備	連絡体制の整備は出来ていない。常に保護者との連絡体制は取れている。		同上
	4	児童発達支援事業所からの円滑な移行支援のため、保育所や認定こども園、幼稚園、小学校、特別支援学校(小学部)等との間での支援内容等の十分な情報共有	実施されていない。情報共有は相談支援事業所からのものとなっている。		必要に応じて、相談支援事業所を通して情報収集をしていく。
	5	放課後等デイサービスからの円滑な移行支援のため、学校を卒業後、障害福祉サービス事業所等に対するそれまでの支援内容等についての十分な情報提供	同法人の場合は出来ている。それ以外については、要望があれば提出している。		横の繋がりを作りながら、いつでも情報の共有や発信が出来るように準備しておく。
	6	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携や、専門機関での研修の受講の促進	出来ていない。		情勢や制度等にもアンテナをはりながら、積極的に研修の受講を検討していく。
	7	児等発達支援の場合の保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、放課後等デイサービスの場合の放課後児童クラブや児童館との交流など、障害のない子どもと活動する機会の提供	出来ていない。	はい:5名 どちらともいえない:1名 いいえ:3名 わからない:21名	ニーズを把握しながら、どのように交流を深めていけるか等を検討しながら進めていけたらと思う。
	8	事業所の行事への地域住民の招待など地域に開かれた事業の運営	出来ていない。		事業所発信のイベントを実施出来ていない為、色々と考えながら検討していく。

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容	
保護者への説明責・連携支援	1	支援の内容、利用者負担等についての丁寧な説明	支援内容においては、口頭や書面、必要に応じてLINE等も使用している。利用者負担等においても同様に実施している。	はい:30名	現状の内容を引き続き実施していく。支援内容においては、写真の送付等、見てイメージして頂けるような工夫もしていく。
	2	児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画を示しながらの支援内容の丁寧な説明	出来ている。	はい:28名 どちらともいえない:2名	現状の内容を引き続き実施していく。新型コロナウイルスが落ち着き始めた頃を見計らい、保護者との顔を合わせる機会を増やしていく。
	3	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対するペアレント・トレーニング等の支援の実施	しっかりと出来ているとは言えない。全体に向けての発信が弱いと感じる。	はい:9名 どちらともいえない:3名 いいえ:7名 わからない:11名	同上。保護者向けの事業所発信の研修会や勉強会も実施していけるように努める。
	4	子どもの発達の状況や課題について、日頃から保護者との共通理解の徹底	必要に応じて実施している。送迎時や電話、LINE等を使用しながら保護者のニーズに合わせている。	はい:30名	現状の内容を引き続き実施していく。
	5	保護者からの子育ての悩み等に対する相談への適切な対応と必要な助言の実施	電話や送迎時、必要に応じて家庭連携等の制度も利用しながら実施している。	はい:25名 どちらともいえない:5名 いいえ:1名	現状の内容を実施していくが、相談に対応できるだけの知識や経験を確実に身に付けていけるように自己研鑽に努めていく。
	6	父母の会の活動の支援や、保護者会の開催による保護者同士の連携支援	出来ていない。	はい:4名 どちらともいえない:2名 いいえ:9名 わからない:15名	全員が集まるとなると事業所の広さ的に無理がある為、場所を変える、または複数回に分ける等の工夫をしながら進めていく。
	7	子どもや保護者からの苦情に対する対応体制整備や、子どもや保護者に周知及び苦情があった場合の迅速かつ適切な対応	管理者を中心としてその日の内に解決。その日の内に報告書作成、今後の対応策の周知共有等を実施している。	はい:27名 わからない:4名	現状の内容を引き続き実施していく。
	8	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮	送迎時の口頭報告に加え、必要に応じてノートへ記載、LINE、写真の送付等、イメージをして頂け易い工夫をしている。	はい:25名 どちらともいえない:1名	現状の内容を引き続き実施していく。
	9	定期的な会報等の発行、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報についての子どもや保護者への発信	法人の広報誌を年2回発行している。事業所の会報等はないが、活動予定は月間を出している。	はい:28名 どちらともいえない:1名 わからない:2名	事業所の日々の様子が確認し易いように、ホームページ等の充実を図っていけたらと思う。
	10	個人情報の取扱いに対する十分な対応	個人情報については、ファイリングして保管、必要に応じて鍵付きの場所へも保管している。	はい:31名	現状の内容を引き続き実施していく。緊急時にすぐ持ち出せる様に鍵付きのところへ保管していないものもある。

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容	
非常時等の対応	1	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルの策定と、職員や保護者への周知徹底	作成はしているが、内容を更に細かくしていく必要がある。	はい:23名 いいえ:1名 わからない:8名	基本マニュアルの作成、または事業所毎ではなく、法人で統一されたものも作成していく。
	2	非常災害の発生に備えた、定期的に避難、救出その他必要な訓練の実施	年2回の避難訓練の実施をしている。その他、児童との学習の中で緊急時の行動についての話等をSSTとして実施している。	はい:21名 わからない:10名	現状の内容を引き続き実施していく。
	3	虐待を防止するための職員研修機会の確保等の適切な対応	法人で実施している毎月のセルフチェックと、兵庫県知的障害者施設協会が毎年実施している虐待未然防止研修の参加や動画視聴で学びを深めている。		現状の内容を引き続き実施していく。日々の支援の振り返りをしっかりと行うことで、虐待を防止へと努めていく。
	4	やむを得ず身体拘束を行う場合における組織的な決定と、子どもや保護者に事前に十分に説明・了解を得た上での児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画への記載	現状実施したことはない。組織での決定の流れ等は職員へ周知している。保護者へは説明と同意書を頂いている。		現状の内容を引き続き実施していく。 保護者へ対して定期的な説明を実施していく。 職員への定期的な研修も実施する。
	5	食物アレルギーのある子どもに対する医師の指示書に基づく適切な対応	対応児童がいない。		対象児童がいない。
	6	ヒヤリハット事例集の作成及び事業所内での共有の徹底	事例集の作成は出来ていない。ヒヤリハットの共有については毎日の振り返り等で周知出来ている。		現状の内容を引き続き実施していく。報告書の作成とファイリング、職員の確認は確実に実施していく。